

MAENAN SAH Journal Vol.22

～『自分で考え、判断し、行動できる生徒の育成』をめざして～ Nov. 22nd, 2023

★『受験に必要な非認知能力』について考えてみた!★

*文字ばかりでごめんなさい!



①『モチベーション』の『継続力』!

困難にぶち当たったときに気持ちが揺らいでしまうかもしれない。だから、『どんな職業につきたい?』だけではなく、『どんな〇〇になりたい?』など『具体的な理想像』があることが望ましい。しかし、東大志望者にも具体的な目的がなく、とりあえず偏差値のいちばん高い大学を選んだという人が結構な人数いるらしい。『大学在学中に考える』という人もいるので、それはそれでよい。どんな困難が待ち受けていても『自分の夢を実現させる!』という強い気持ちでいる必要がある!例えば、『同じ能力(成績)』の2人がいたとして、この『モチベーション』の『継続力』の『ある人』と『ない人』ではどんな結果になるのか?自分を信じる者は救われる!

②『受験校攻略』のための『分析力』!

当然『受験校』によって『攻略法』は異なる。できれば、『自分の長所』と『攻略法』が一致していることが望ましい。『自分の長所』を『最大限に評価』してくれ、『自分の短所』が『マイナスに働かない』入試制度がよい。例えば、『英語が得意』なら『英語の配点が高い』という点だけでなく、『なぜこの問題が出題されたのかという出題者の意図』など『細かな部分についての分析』もして欲しい。力不足であれば『特訓』するしかない。『困難や苦勞』は承知の上だ。最終的に『必要な力』を身につければいいのだ。ではその力をどうやって身につけるかを考えねば!

③『メタ認知』からの『戦略作成力』!

『自分の力を客観的に把握する力』を『メタ認知』という。『正確』な『メタ認知』があれば、無駄な学習を省ける。この簡単な方法として『模試の復習』がある。『本番でできなかった問題をできるようにする』のだ。しかも『忘れたところにやってみて、できることを確認する』のが望ましい。塾に行かなかった私は『高3の模試のすべて』を、『忘れた頃にやっても満点になるよう』にしてみた。結果は『すごい効果(詳細を聞きたい人は来てください)』が出た。この方法は『最新問題』のトレーニングになり『強化する必要がある分野を特定する』のにも役立った。平行して『問題集5周』ということも自分に課した。毎回『できた問題』『できなかった問題』『理解があやしい問題』などの記号をつけ、『次にやるときの参考』とした。『何回やってもできる問題』はやる必要がなくなり、時間が短縮できた。『赤本(入試の過去問集)』でも同じことをやるだけで『実力』は上がる!

④『セルフマネジメント力』&『修正力』!

『メタ認知』ができれば『学習計画』を作成し、『日々修正』すればいい。『受験あるある』だが、『気合いの入りすぎた計画』はすぐに破綻する。あらかじめ『計画通りにできない』ことを想定しておくもよい。例えば、『土日の夜』には『予定を入れず』に『平日にできなかったことをやる時間』とか『理解が不十分なことをやる時間』とするのはどうだろう?『予定を立てる』『やり遂げる』ことも必要だが、『できないことを想定する力』や『うまくいかなかったらすぐに修正する決断力』もあるとよい。『気楽』になりプレッシャーも和らぐはずだ。『自分流』で『ちょっとゆるめな要素のあるマネジメント』をしてみよう!



⑤『レジリエンス(回復力)』!

『レジリエンス』とは『挫折や困難から立ち直る能力』をいう。受験では、途中で多くの『障害・困難』に直面する。例えば、『自信を失う』『不安になる』『悲観する』などの『負の感情』に対し『コントロール』が必要となる。私は『うまくいかない』のが『当たり前』くらいに思っている。よって、はじめから『うまくいかなかったときに、いかに次の一歩を踏み出すか』に重きを置いている。『うまくいかない』のなら『試行錯誤』するしかない。だから『膝を抱えて嘆く時間』があるなら、『別の方法』を試したいと考えている。足を止めずに『前進』を選択した方が解決が早いのでは?

⑥『根拠のない自信』&『鈍感力』!

『根拠のない自信』という表現は失礼だが、これをもっている人は強い。まわりが『無理だ』と言っても『まったく揺るがない』のだから。しかもこのタイプは『浪人してもまったく揺るがない』ことが多い。私の教え子のなかには『2浪後に医学部医学科合格』も複数いる。周りは心配してしまうのだが、本人は平気なのだ。『鈍感力』という表現も失礼だが、『気にしない』という力はすごい。『負の感情』は私たちの努力を止めさせてしまうことがある。これが『起こらない』というのは『強み』である。この力を持っている人が正しい努力をすると結果が出るのは必然である。

⑦『プラス思考』&『自己肯定感』!

『プラス思考』という言葉もよく耳にする。私の経験で言えば『どちらに転んでも、プラスの方向につながるように考える』ことだ。例えば、『模試で成果が出た』のなら、『よかった!努力の甲斐があった!』と考え、『結果が出なかった』のであれば、『まだまだ甘かった!次はもっとがんばるぞ!』と考える。『好きな女の子と仲良くできた』のなら、『これでやる気がさらに出た!』と考えるし、『好きな女の子とうまくいかなかった』のなら、『これで受験に集中できる!』と考える!『現役で合格』したら、『夢がかなった!努力が実った!』と喜び、逆に『浪人』が確定したら、『この悔しさを忘れない!この悔しさを活かす!』とか、『ギリギリ入学ではなく上位入学を目指す!』とか強い気持ちで考える。『どちらの自分も肯定する』ことができるなら、『負の感情』に邪魔されることはなくなるのだ。

【注意!】『セルフハンディキャッピング』とは?

試験の前に『ぜんぜん勉強しなかった』という人がいる。本当はしているのなら構わないが、テストの点数が悪かった時のために、前もって理由を用意している場合がある。自分にとってハンディキャップがあることをわざわざ他者に主張し、『自尊心を保ち、傷つくことを防衛』する行為なのだ。全力で取り組んでも、うまくいかないことはある。しかし、『取り組む前』に『悪い結果』につながることを自分で用意し『努力を止める』のは『もったいない』と言わざるを得ない。これに陥ってはいけない。御注意ください!



担任をしていたときの『三者面談』で、『俺が無理だって言ったらあきらめる?それとも「ふざけるな!」と言って勉強に燃える?どっち?』とよく生徒に聞いていた。ここで『あきらめます』と言うのか、『燃えます!』と言うのかで『結果は大きく異なる』はずだ。ある生徒に『絶対に合格して私に謝らせてやる!』と思ってがんばったら合格した』と卒業後に伝えられた。『気弱な負の感情』より『強い怒りの感情』が『プラス』に働いた事例だ。『俺は合格させたくて言ったのだから、喜んで謝るよ!おめでとう!』と言って許してもらいました笑 みんなはどんな非認知能力が必要だと思いますか? 文責:星野 亨(教頭)

